

名古屋芸術大学でインテリアや建築の勉強をしていた3年生のときにアップサイクルに出会いました。その課題は「パイプ椅子をどうするか」を考えることでした。

当たり前に使っていたパイプ椅子は、折り畳むときの動きやパイプのラインが、あらためて見るとすごく美しいと思いました。そこを際立たせるために、座面をあまり目立たせないで、折り畳みのラインがうまく出るようにアップサイクルしてみました。その評価が良かったことで、自分の得意分野が見つかり、より興味が湧いて今に繋がった感じです。

卒業制作をする4年生になった際には、コロナ禍で自宅待機になり、大学での作業ができなくなりました。家にいる時間が長くなると、自分の出しているごみの量とか、こんなにプラスチックごみを出していたとか、菓子パンやカップ麺が随分多かったことなどが見えてきました。それがきっかけで、まず、ごみを出さない生活を始めて、そこから卒業制作に繋げ、素材開発としてアップサイクルを採り入れました。

アイデアは生活の中で出てきます。当初の素材開発はバナナの皮だったり、コーヒーかすだったり、ごみとして出されるものでした。実際に消費しているものから問題を感じて取り組んでいったのがスタートです。

どんな素材にするかは、バナナの皮であれば、まずそれでどんなものが作られているのかを調べます。既にあるものの問題点やこれは何か少し違うと思うところなど、そこを改善していくにはどうしたらいいかと考え、選択肢を狭めていくうちにブラッシュアップしていきます。あとは「バナナの皮から何を作るか」から発想し、「皮」という文字を変化させてレザーを作ったりしました。

ランプシェードや花瓶を作成した「カフェオレベース」という素材は、コーヒーかすを固めるために牛乳を使います。「コーヒーと牛乳でカフェ・オ・レ」みたいなコンセプトを作り、ブラッシュアップしていきました。コンセプトから入っていくのが多いかもしれません。牛乳のタンパク質は接着剤になり

特集 土木施設×Re

人々の価値観や 行動を変えるアップサイクル MESSAGE

ます。海藻のエキ스는粘性がありゲル化します。そういう特性があるものは使いやすいです。糸くずはただの糸の集まりですが、ゲル素材と組み合わせればアイデアは出てきます。つまり、組み合わせが重要になってくるわけです。

アップサイクルで僕が大切にしているのは、最終的に全ての素材を土に戻るものを選ぶということです。言い換えれば、自然に還るようなものだったら何でも素材になります。作り方も、みんなができるような簡単なものにしたいと思っています。「カフェオレベース」と言う素材は、ワークショップなどで手に取ってもらえる簡単ものになっています。混ぜ合わせたり、こねたり、焼いたり、お菓子のように作れるものばかりです。日常生活で作るきっかけになればいいのです。

アップサイクルの基本は廃材を使ってより良いものに変えることだとすると、アップサイクルが当たり前になると、廃棄が減るはず。物理的に廃棄されるものはなくなりますが「ごみ」という概念自体はなくていいものだと思います。アップサイクルを日常的にすることによって、ご

みではなく素材に変えて、個人の廃棄がなくなっていくと、ごみ箱という存在もなくなっていくのではないのでしょうか。

僕がやっていることを「リサイクル」と紹介されることもあります。アップサイクルは、それに付加価値が付いていることだと思います。リサイクルが先にあってもいい。リサイクルは、ペットボトルをペットボトルにもう1回戻すとか、同じものを作るイメージが強いですが、違うものにするにはどうしたらいいか。リサイクルだけではまかなえないところで、次の選択肢がアップサイクルではないかと思っています。抜け道を探すというか、今までなかったアイデアを試していくので、それを「付加価値」と呼んでいるだけなのかも知れません。

今、アップサイクルの流れでは、感情だったりとか、コンセプトだったりとか、そういう気持ち的な部分でどう良くなっているか、というのが大事になってきています。人々の感情をどう動かすかも付加価値になります。人々の価値観や行動を変える可能性があることは、アップサイクルの素晴らしい魅力だと思っています。



バナナレザー（大学卒業制作で作製）



バナナの皮→乾燥→粉末（大学卒業制作で作製）



村上 結輝
MURAKAMI Yuki

プロフィール

1998年4月8日生まれ。愛知県在住。コロナ禍を機に大量生産大量消費の中で暮らしていた自分の生活を見直すようになり名古屋芸術大学の卒業制作でバナナ皮からレザー素材を開発。2021年にはコーヒーかすや牛乳から作る「カフェオレベース」、2022年には廃棄石膏を活用した「re secco（リセッコ）」などの新素材をリリース。身近な廃材を美しい素材に生まれ変わらせることで、アップサイクルの考え方や可能性を感じてもらい、社会課題を「自分ごと化」するきっかけを創出している。株式会社 On-Co 素材デザイナー、上回転研究所 所長。



「バナナレザー」で作った財布（大学卒業制作で作製）